

阪神間モダニズムの魅力発信に向けた提言

~新しい時代へ阪神間モダニズムを伝える~

年代や関心、趣味などが異なる対象ごとに戦略性をもって阪神間モダニズムをPRします。

戦略性のある
PR展開
▼
阪神間の
認知度向上

「若年層に向けて」

モダニズムを知らない世代へ、
阪神間の建築・美術・歴史などを
動画やSNSを活用し、ソフトに紹介



阪神間モダニズム Vol.1
100年前 芦屋・西宮は
一大ビーチリゾートだった…

「シニア層に向けて」

▼

ハンドブックスタイルの指南書の作成、
まち歩き、講演会など

▼

その他の主體に向けて

美術館・劇場・ホールなど
アメニティ施設と県が連携し、
参加型イベントを開催



マスメディアに向けて



紹介動画やハンドブックの活用。
「結成から70周年」
「生誕から100年」など、
阪神間モダニズムの節目となる
イベントを広域的にPR

デジタルアーカイブの
活用
▼
記録と伝達



地域資源、阪神間に
ゆかりの人物をVR等の
デジタルでまとめ、
地域や教育現場で活用する

県民主体の地域づくりを
つないでいく

3つの『つなぐ』を柱に、施策を展開する

さまざまな
主體
をつなぐ

住民
事業者
関係団体
マスメディア

さまざまな
場所
をつなぐ

オリンピック
パラリンピック
日本国際博覧会
具体的な結成70周年

さまざまな
契機
をいかして
つなぐ

阪神間の地域資源の再発見と
新しい阪神間の再創造

阪神南県民センターは、3つの「つなぐ」を柱に住み続けたい、移り住みたい、訪ね続けたいまちを目指して施策展開をしていきます。

■阪神間モダニズム再発信プロジェクト基本構想策定委員会委員

○加藤 恵正 兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科教授
○河内 厚郎 文化プロデューサー
岸 桂子 毎日新聞阪神支局長
田辺 真人 園田学園女子大学名誉教授

平井 章一 関西大学文学部芸術学美術史専修教授
三宅 正弘 武庫川女子大学生活環境学部生活環境学科准教授
矢下 幸司 観光ジャーナリスト

(五十音順、委員長は○・副委員長は○)

美術館
商業施設
歴史遺産
交通網

住み続けたい、移り住みたい、訪ね続けたい、まちに

阪神間モダニズム 再発信プロジェクト基本構想(概要)

阪神間モダニズムの
バックグラウンド

和洋、新旧、様々なものが調和した豊かなライフスタイルが生まれる素地

阪神間では豊かな自然環境のもと、古くから人々が生活を営み、交流が生まれ、
活発な経済活動をもたらし発展しました。そしてそれは、新しい考え方や文化を
柔軟に取り入れる阪神間の「寛容な風土」を育みました。



豊かな自然環境
▼
古代から育まれた
寛容な風土



廣田神社の参道
芦屋川の大正橋と六甲山系
歴史的な要所
▼
人々の交流が
育まれた



活発な経済活動
▼
豊かな生活が
育まれた

阪神間モダニズムの
ヒストリー

～時代の流れが生み出した阪神間の特性～

江戸時代に日本の物流の中心だった大阪、
明治時代に港が開かれた神戸、
時代の先端をいく都市の間で
多様な文化が生まれました。



阪神電車第1号車(旧1形)
[提供:阪神電気鉄道株式会社(社史より)]
明治38年(1905)大阪・神戸間初の
鉄道が開通。阪神間のまちづくりの
要となる

宝塚歌劇団(ベルばら像)
大正3年(1914)に初公演。
阪神間には文楽や能などの伝統文化
があり、歌劇のような芸能、舞台芸術
を中心とする文化も栄えていた

武庫川女子大学甲子園会館
(旧甲子園ホテル)
ロシア人による浜手のリゾート化に
始まり、外国人設計士による和洋折衷
の西洋風建築が多く建てられる

甲子園住宅経営地鳥瞰図／昭和5年(1930)
[提供:阪神電気鉄道株式会社(社史より)]
鉄道沿線の住宅地に隣接して、娯楽、スポーツ施設、
学校、病院などが作られ、ガーデンシティの先駆けとなつた

注)阪神間モダニズムとは
明治末期から昭和中期にかけて、鉄道沿線の
住宅地開発によって生まれた新たなライフスタイル、
芸術文化、価値観などの時代の潮流を指す。

注)阪神間とは
神戸市の東部、尼崎市、西宮市、芦屋市、伊丹市、
宝塚市、川西市、三田市及び猪名川町を指すものとする。

1960年代の尼崎市の出勤風景
文化人や資産家により形成されていた
阪神間にサラリーマン層が流入すること
により、新たなライフスタイルが展開

明治から昭和にかけて花開いた
阪神間モダニズムは、大衆化
されいつしか生活に溶け込む
ものの、近年は意識されなくなつた

具体美術
(吉原治良《黒字に赤い丸》1965年)
[提供:兵庫県立美術館所蔵]
阪神間の近代建築やライフ
スタイルに影響を受けた美術
グループ「具体」が誕生し、世界
的な評価を得る

阪神間モダニズムの精神を受け継ぐ
機会や場の創出

●阪神間モダニズムの文化の内実から
問い合わせ直すシンポジウムの開催
●阪神間モダニズム関連書籍の刊行等
での情報発信

灌五郷／西宮郷 白鷺禄水苑
酒造りだけでなく、文化講座や催事・コンサートなども
開催される

定期的に講演会や座学、
イベントが行われる施設の1つ、
芦屋市立ルナ・ホール

阪神間に当時流行したスイーツや現在流行
しているパン・スイーツを巡るツアーの開催や
情報発信

阪神間にはたくさんの
パン、ケーキの店がある

1つ1つの大学はもとより、地域全体
として大学を盛り上げる取組を考える

★阪神間モダニズムが
息づく学園都市として
高校生向けの地域全体で
のオープンカレッジなど
のイベントや各大学と行政
が連携したイベントの開催






阪神間モダニズムの 地域資源の活用に向けた提言

阪神地域では2030年に向け、地域創生の取組の一環として「阪神間モダニズム」に代表される豊かな地域資源を再発信し、
現代のライスタイルに合わせた地域プライドの醸成と地域の再創造を目指します。

阪神間の地域資源をいかした
ストーリーづくり

阪神間の多彩な地域資源をつなげてストーリー化
することで、その魅力をわかりやすくPR




★阪神間芸術文化回廊の構築
●舞台芸術を中心に構築
●多様な主体が連携し、各種の
取組や施策として活用



★文化施設の集積をいかす
「文学で巡る阪神間」「漫画で
巡る阪神間」などのストーリー
のPR



明治一昭和初期の俳人・高浜虚子ゆかりの虚子記念文学館

★歴史をいかす
●大正から昭和初期にかけての
雰囲気をたどるモデルコース
の企画
●小説やアニメに登場する場所
を巡るツアーの企画



公共交通機関を使い、簡単にハイキングやピクニックが楽しめる山手のリゾートの1つ、
六甲山カンツリーハウス

★豊かな自然をいかす
阪神間モダニズムにも影響を与えた
豊かな自然。人々の創造的活動を促す
ような自然を楽しむ機会の提供



かつて具体的な野外展「真夏の太陽に挑む
モダンアート野外実験展」が開催された
芦屋川河畔の松林

具体美術
(白髮一雄《作品II》1958年 油彩・とりの子紙)
[提供:兵庫県立美術館所蔵]

都市近郊の自然の活用



★事業所の受け入れの推進
多様な環境のPRやスマーズな
移転に向けた支援



★ワーケーション
優れた住環境、交通網、豊かな自然を
いかしたワーケーションの推進



散歩やジョギングが楽しめる阪神間の白砂青松ビーチの1つ、
瀬戸内緑地ビーチ



「具体美術」の再発信

若い世代をターゲットとし、音楽、パフォーマンス、映像などをを使ったPR



かつて具体的な野外展「真夏の太陽に挑む
モダンアート野外実験展」が開催された
芦屋川河畔の松林

